

寄付講座「東アジア共同体研究入門」前期日程

6/1 文化運動としての東アジア『民衆美術』 於:SHALOM 1-1/13:00～14:30
講師:山口泉(作家)

沖縄同様、日本の植民地支配を経験した韓国と台湾では、第2次大戦後、米国と軍事独裁政権の二重支配に対する苦難に満ちた抵抗が展開された。その闘いで大きな役割を果たした「民衆美術」の成果と理念を、代表的表現者たちとの親交を踏まえ、東アジアの文化運動としての視点から紹介する。資料画像、多数。

山口泉氏プロフィール

1955年、長野県生まれ。『吹雪の星の子どもたち』ほか小説、『アジア、冬物語』ほか評論等、著書多数。現在「週刊金曜日」に小説『重力の帝国』を、「琉球新報」に同時代批評『まつろわぬ邦からの手紙』を、「図書新聞」に美術批評『光源の画家たち——東アジア「民衆美術」の現在』を連載中。沖縄市在住。

6/15 「エアラインが開く大交易時代」 於:SHALOM1-1/13:00～14:30
講師:戸崎肇(首都大学東京特任教授)

アジア地域における人・物の動きはますます活発なものとなっており、そのことがアジアの平和・安定に果たす役割についても大いに注目されるようになってきた。お互いの相互理解にとって直接的な機会を提供し、その結果、概念的なだけではなかなか乗り越えることのできない「壁」を乗り越える可能性をもたらしているからだ。

戸崎肇氏プロフィール

1963年大阪に生まれる。京都大学経済学部卒業。日本航空に入社し、空港業務、販売業務などを経験したのち、学業専念のため退社。博士(経済学、京都大学)。帝京大学、明治大学、早稲田大学等を経て、2017年4月より首都大学東京特任教授。主な著書に『航空の規制緩和』(勁草書房)がある。

6/29 「IT情報通信の歴史と万国津梁」 於:SHALOM1-1/13:00～14:30
講師:島田勝也(沖縄大学地域研究所特別研究員)

21世紀は「情報革命」の進展により人々の仕事や生活や社会の構造までもが一変すると言われてきた。電気通信技術、コンピューター、インターネット、携帯・スマホの普及や進歩など「情報革命」の本質を考える。沖縄県は情報産業を観光と並ぶ基幹産業と位置けて推進している。私たちの生活はどのように変わるのか? 解き明かしていく。

島田勝也氏プロフィール

1961年生まれ、沖縄市の出身。
1983年日本電信電話公社(現NTT)入社、ITによる沖縄振興・地方創生に取り組む。
2011年より沖縄大学地域研究所特別研究員、「メディアとマーケティング」の講義を担当。
ラジオ沖縄「沖縄羅針盤」のプロデュース&ゲストとの対談役として出演中。

8/10 「日本のホスピタリティ文化をアジア地域に発信する
～ホテル現場の実践事例を通して～」(使用言語:英語 ※英日同時通訳付)
Exporting the “Omotenashi”, the Japanese Spirit of Hospitality,
out to Asian Regions: A study of Actual Cases from Hotel Business
於:SHALOM1-1/13:30～15:30

講師:上地恵龍(沖縄キリスト教学院大学特任教授)

日本における「もてなし」と西洋で派生した「ホスピタリティ」とを比較・対照しながら二つのアプローチの類似点と相違点を明らかにする。アプローチの違いから、「もてなし」は、“Japanese Hospitality”(ジャパニーズ・ホスピタリティ)として知られ、重要な輸出文化のひとつとして注目されるようになっている。

上地恵龍氏プロフィール

(株)日本航空開発入社後、30年以上に渡り、沖縄、大阪、北京、台北、デュッセルドルフ、パリ、ハノイなど、国内外でホテルプロジェクトの参画や運営に携わる。2004年に(株)首里観光代表取締役およびJALホテルズ本社の専務取締役などを務める。
2017年4月より沖縄キリスト教学院大学特任教授を務める。